

## 河上徹太郎



岩国市  
(1902～1980)

提供：新潮社

河上家は代々岩国の家老をつとめた名家。岩国の実家で暮らしたことはないが岩国をこよなく愛した。

文学活動以前にスポーツと音楽に親しみ、その素地が批評活動の原形をつくった。中原中也、小林秀雄らと親交があり、ヴェルレーヌ、ヴァレリー等の著作に感銘、影響を受けた。ピアノや鉄砲などの多くの趣味を持ち、それらについても文章を残している。卓抜した評論活動を行い多くの著作を残した。評論の背景にカトリシズムの思想があったことは見逃せない。また、吉田松陰を扱った長編評論は有名。

(稲生 慧)

## 【主な著作】

『道徳と教養』(実業之日本社、昭和15年)

『日本のアウトサイダー』

(中央公論社、昭和34年)

『吉田松陰―武と儒による人物像―』

(文芸春秋社、昭和43年)